

市民提言 4

**多様な教育保障** 「子どもはみんな同じ」ということを実現する学びの仕組みを、一層発展させてほしい

**市答弁** 無償化対象外の外国人学校  
**の園児保護者にも補助金を支給**

**松葉子ども家庭部長** 人権条例の理念の下、幼稚園保護者補助金制度を拡充して幼児教育推進費として、国の制度で幼児教育無償化の対象外になった外国人学校等の園児の保護者にも補助金を支給することとした。さらに昨年度は国の「小学校就学前の子供を対象とした多様な集団活動等への支援の在り方調査」事業を受託し進めている。国に意見を上げるとともに、具体的な支援を充実させていくことで教育を受ける権利を保障していく。

**上村** この精神を今度つくる子ども条例にもつなげていってほしい。

**松葉部長** 前提は子どもには無限の可能性があるとということ。障害や障壁があればそれを排除するという精神と、今この瞬間にも苦しんだり泣いている子どもがいるということを忘れずにこの人権条例をつくっていききたい。

市民提言 5

**環境問題** ごみを排除しない  
地域内循環のまちづくりを

**市答弁** 環境教育や食育の中で、子どもたちに教えていく必要はある

**黒澤生活環境部長** 「国立市循環型社会形成推進基本計画」を定め実施している。事業所食品残渣(ごんさ)については、たとえれば給食センターは委託事業者で堆肥化するなどしている。落ち葉は公園で落ち葉プールを設置し、事業者に委託して飼料や堆肥化している。課題はすべてを市内で受け止められないこと。給食からの堆肥は学校の花壇等で無償で活用できる。今実績はないが。

**上村** ごみを活かす循環を、見える形にして子どもたちが学んでいくのが食育だが、教育委員会ではどうか。  
**橋本次長** 環境教育や食育の中で、子どもたちにしっかり教えていく必要はある。考えていきたい。

**市長** 国立の市域の狭さや産業構造の中でごみを国立市に返しきれない構造がある。これを子どもたちがいる場所にどう循環できるかは、もう一回再構築してみる必要がある。

市民提言 6

**人権問題** 人権・平和のまちづくり  
審議会をもっと有効に生かす

**市答弁** 任期を延長して審議をまとめるようにしたい

**市長** 2期目は、市政運営の根幹である人権・多様性・平和、ソーシャルインクルージョンの理念を、具体的施策としていく。現在審議会で検討を進めている基本方針が出されれば、それにより市としての課題や施策、救済制度を検討していく。職員にも浸透させて取り組む。

コロナで一層困難な人権的課題が出てくる可能性があるが、当事者に寄り添った市政運営を目指す。

**宮崎部長** 審議会は緊急事態宣言により予定回数は開催できていない。6月までの任期だが、延長して審議を継続しまとめるよう調整したい。

市民提言 7

**社会教育** 公民館での学習を広げ、深めるための職員体制の充実

**雨宮生涯学習・文化・スポーツ推進担当部長**

公民館職員の経験年数や職員構成などについては人事部局に継続して要望していきたい。専門性や経験について検討していきたい。

**国立市の学校給食残渣の堆肥化を引き受けている工場を見学**

給食センターから毎日出る給食残渣(年間7500kg)は、神奈川県相模川町にあるアクトエアという業者が回収し木のチップと混ぜて発酵させ、2〜3ヶ月で有機堆肥に生まれかわります。政策提案をされた市民や市職員と4月に見学に行きました。



同社は、堆肥の使い途として山梨に大きな畑を買い、そこで有機野菜を育てて販売もされています。しかし、当の国立市の小・中学校の子どもたちは、給食の残りがその後どうなっていくか知りません。

今回、この市民の方は、子どもたち自身が給食残渣から有機堆肥に再生されるプロセスを知り、できた有機堆肥を使って、学校でグリーンカーテンをつくったり花を育てるなど、循環を学ぶことが重要と



市長や教育長に政策提案を行いました。6月議会で引き続き質問します。